

### 平成30年度 英語が好きになる学校づくり事業 取組報告書

事務所名	中部教育事務所	学校名	北上市立南中学校	TEL	0197-67-4318
------	---------	-----	----------	-----	--------------

## 積極的な自己表現活動につなげる授業づくり

### 【ねらい】

1. 英語科で連携し、課題、指導内容を共有することで、授業改善、授業力向上を図る。
2. 自己表現活動を多く取り入れた授業を展開し、意欲的、積極的に自分の考えや意見を発表できる生徒を育成する。
3. 楽しんで学ぶことができる環境をつくり、生徒の言語、文化への興味関心を高める。

### 【具体的な取組】

#### 1. 生徒の実態

##### (1) 本校研究主題「確かな学力をはぐくむ指導の工夫～協同的な学習を取り入れた、教えて考えさせる指導～」

本校の生徒は、明るく、行事や活動に意欲的に取り組み、男女の仲もよいことが特徴である。その関係性を生かし、授業の中に、「級友とのかかわりを重視した学び合い」を意図的に取り入れることにより、生徒の学習意欲が喚起され、受け身の姿勢から主体的な学びへと変えることを、各教科、全領域でねらいとして取り組んでいる。

##### (2) 諸調査の結果から

・平成29年度県学調のデータ（現3年生）（ ）内は県平均

年度	学年	平均点	各分野の正答率					
			聞くこと	読むこと	書くこと	理解	表現	知識・理解
平成29年度 県学調	2年	62.7 (53.7)	85.1 (78.8)	61.3 (51.4)	55.6 (46.4)	67.9 (59.1)	40.9 (27.4)	62.1 (54.8)

・平成29年度CAN-DOテストデータ比較（現2年生）

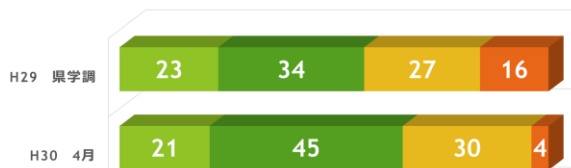
年度	学年	対象	全体正答率	正答率が低い問題
平成29年度 CAN-DOテスト	1年	県	65.9%	人を紹介する英作文や、Howを正しく使った疑問文を書くなど「書くこと」について県平均よりも10%以上下回る問題があった。
		本校	64.5%	

諸調査の結果から、書くことを含めた表現に対する落ち込みがあることがわかる。

##### (3) アンケート（現3年生）

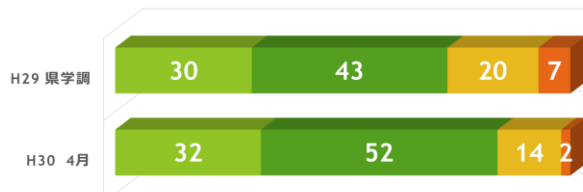
・英語の勉強は好きですか（％）

■好き ■どちらかといえば好き  
■どちらかといえば好きではない ■好きではない



・英語の授業の内容はよくわかりますか（％）

■分かる ■どちらかといえば分かる  
■どちらかといえば分からない ■分からない



・英語の勉強で一番身につけたい力（％）

■話すこと ■書くこと ■聞くこと ■読むこと



英語授業に対して肯定的な考えの生徒が多く、普段の授業からも意欲的に取り組んでいる。また、生徒たちは、話すことに力を入れて学習したいと考えている。



#### 4. その他の実践

##### (1) 校内の国際理解コーナーと英語表示

- ・ A L T の協力のもと、外国文化を紹介するポスター等を校内に掲示している。



##### (2) 授業でのレポート作成

- ・スピーチ等で活用した原稿を基に、レポートを作成し、教室や廊下に掲示している。ある程度自由に書かせることで、表現することに意欲的であり、スピーチで聞き取り切れなかったところを、クラスで共有できる手段となっている。



##### (3) 昼休みを利用した A L T との English Club

- ・ A L T の協力のもと、10分程度のゲームを中心とした活動を昼休みに実施している。全体に呼びかけ、希望者（10人未満）が集まり、楽しく活動している。歌やカードゲームなど様々な形で英語を楽しめる時間になっている。



##### (4) A L T との交流を目的とした学年英語（3年生）

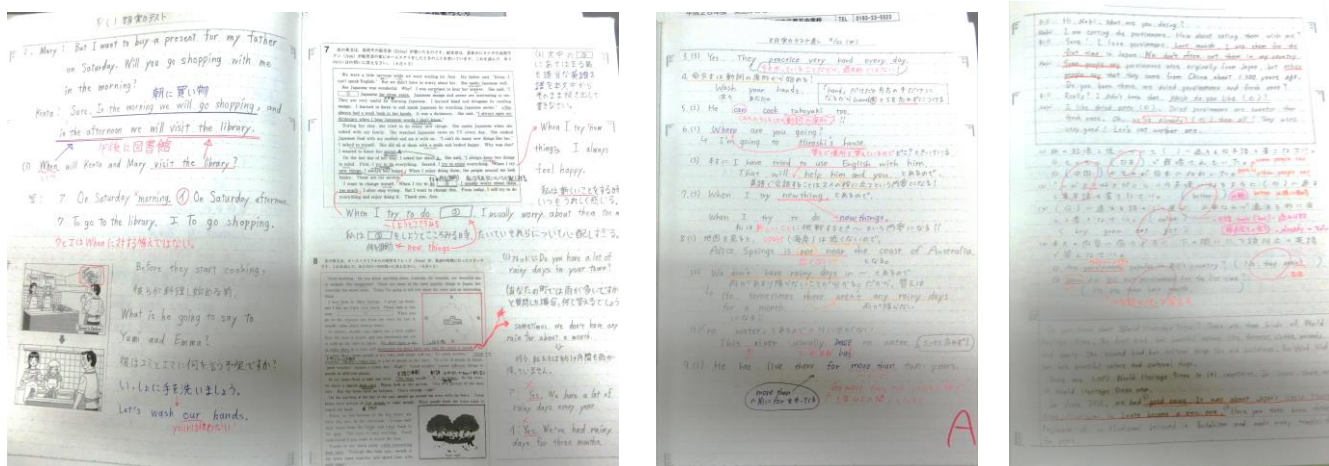
- ・ A L T の Farewell Party と Welcome Party を学年執行部が進行し、ゲーム、歌など All English で学年で取

り組んだ。ゲームは、A L T の故郷であるカリフォルニアと南中に関する True or False、A L T 作成の英語のビンゴゲーム、英単語しりとりを行い、最後は英語の授業で練習してきた” Whole New World” を学年で合唱し、A L T に披露した。



### (5) テスト直しノート (3年生)

- 定期テストや実力テスト後に、生徒たちはテストノートを作成している。授業などで聞いた解説やポイントを自分でノートにまとめ直している。ノートの裏表紙には毎回のテストの点数を記録する欄があり、自分の点数の上がり下がりや、苦手な分野を分析できるようにしている。



### 【成果】

- パフォーマンステストを定期的に行うことで、周囲とコミュニケーションを取ったり、自分を表現しようとする生徒が増えている。また、発表内容に様々なおもしろい工夫を凝らす生徒も多く、発表時間は生徒たちの楽しみになっていると思われる。
- 即興性のある Q & A などの帯活動を通して、単語だけでなく、文で答えようとするようになった。
- パフォーマンステストやレポート作成などの表現活動と、言語の知識理解を深めるテストノートの両面で指導したことにより、いろいろな角度から英語の理解を深めることができた。今年度の3年生は10月の第2回までの英検に多くの人が挑戦し、55名が3級を取得、11名が準2級を取得しており、全体の約40%が3級以上を取得したことになる。
- A L T との交流時間を増やしたことで、積極的に話しかけようとする姿勢が以前よりも見られるようになった。昼休みや給食時には、英語と日本語が混在しながらも、一生懸命やり取りをしようとしている。

### 【今後の展望】

- パフォーマンステストの多くは、原稿を用意した prepared なものが多かったため、内容を吟味し、即興性を高めるパフォーマンステストへつなげていきたい。
- ルーブリックを活用し、より良いパフォーマンスにつなげるための生徒と教師の到達目標の共有を図りたい。
- 今後も、英語科での共通理解を図り、継続した P D C A サイクルが必要である。